

包括脳ネットワーク夏のワークショップ
新学術領域合同シンポジウム

「リアリティを生み出し現実世界と関わる脳の働き」

会場：神戸国際会議場（神戸市中央区港島中町 6-9-1）

日時：8月24日（水）

主催：新学術領域研究3領域

「質感認知の脳神経メカニズムと高度質感情報処理技術の融合的研究」領域

「学際的研究による顔認知メカニズムの解明」領域

「ヘテロ複雑システムによるコミュニケーション理解のための神経機構の解明」領域

オーガナイザー：小松英彦（生理学研究所）、一戸紀孝（国立精神・神経医療研究センター）

9：00～9：10 あいさつ

9：10～9：50 本吉 勇（NTTコミュニケーション科学基礎研究所）

「脳は質感をどう捉えるか：感性の計算論的理解に向けて」

9：50～10：30 山口陽子（理化学研究所 脳科学総合研究センター）

「脳のリズムとコミュニケーション」

（ブレイク）

10：45～11：25 山口真美（中央大学）

「顔認知のメカニズムと発達」

11：25～12：05 宮脇陽一（ATR 脳情報通信総合研究所）

「脳情報復号化を用いた高次知覚へのアプローチ」

（昼休み）

13：15～13：55 中村克樹（京都大学 霊長類研究所）

「自閉症児は世界をどのように見ているか」

13：55～14：35 佐藤いまり（国立情報学研究所）

「コンピュータビジョン技術による質感のモデル化」

（ブレイク）

14：50～15：40 特別講演 下條 信輔（カリフォルニア工科大学）

「視覚選好判断の行動・神経対応」

15：40～16：20 月浦 崇（京都大学）

「顔の記憶における情動・社会的認知の効果とその脳内機構」

16：20～17：00 小松英彦（生理学研究所）

「質感情報の脳内表現を探る」